

F1 ブームを再燃させるためには

経営学部 経営学科 石塚ゼミ

B5R11034 尾登健太

【卒業論文概要】

日本では、1980年代後半から「F1 ブーム」が起きた。当時、若者を中心とした日本国民がF1に関心を持ち、レースやドライバーに熱中した。F1は全試合テレビ放送され、日本GPは多くの人々の注目の的であった。しかし、近年は「F1 ブーム」は去り、一部のマニアにしか注目されていない。なぜ、自動車大国である日本でF1がブームで終わったのか。なぜ、日本より欧州の人気は高いのかと疑問に思ったのが、研究の動機である。

本論文は、「F1 ブーム」やその他の興行として成立しているスポーツを調査・分析することで、再びF1が注目されブームが再燃し、日本に根付いたスポーツになるためにはどうすれば良いのかを論じる。

F1の歴史や日本で人気が出ているモータースポーツ、社会問題などを調査した結果、若者を中心とした新規顧客獲得のためのイベントづくりやマーケティング・プロモーション、メディアの重要性が必要であるとわかった。そこで、「F1 ブーム」を再燃させるための改善策を提示し、ラグビー日本代表やカーリング女子といったマイナースポーツがオリンピックなどの影響でブームを起こした事例、新日本プロレスが行った人気低迷から業績回復を成功させた事例などを用いて検証した。